

令和元年度構造工学セミナーの実施報告

1. 実施概要

- ・構造工学セミナーの冒頭で、勝地構造工学委員会委員長より趣旨説明と開会の挨拶があった。
- ・基調講演では、「橋梁定期点検の現状と将来像」と題して、国土交通省の星限順一氏より、道路構造物の維持管理に関する法定点検と一巡目の結果、二巡目に向けた取り組み、維持管理・アセットマネジメントのためのデータ活用に関して報告された。次に、「橋梁点検へのロボット技術の活用に向けた取り組み－江島大橋における事例－」と題して、鳥取大学の黒田教授より、SIP「インフラ維持管理・更新マネジメント」の地域実装・江島大橋プロジェクトに関して、大規模橋梁の点検へのロボット技術の活用やロボット技術を活用した橋梁点検指針(案)などが報告された。
- ・パネルディスカッションに先立って、構造物の管理者として東日本高速道路の板倉義尚氏から「Smart Maintenance Highway プロジェクト」に関して、構造物の点検・診断者としてパシフィックコンサルタンツの中澤治郎氏から「橋梁点検実務者として」と題して、電力施設関係者から電力中央研究所の石野隆一氏から「電力業界でのドローン活用の方向性」に関して、ICT 関係者から(株)ビーエムシーの阿部雅人氏から「AI と点検診断の将来像」に関して話題提供の報告があった。
- ・この後、日本大学の岩城教授をコーディネーターとして、会場からの質疑も交え、構造物メンテナンスにおける点検・診断技術の将来像に関するパネルディスカッションが行われた。
- ・最後に、ロボット、ドローン&AI 時代における構造物メンテナンスの将来像と技術者の位置づけに関して、登壇者から「夜勤のないメンテナンス」、「楽（らく、たのしむ）」、「慣れ、親しむ」、「可視化」、「適材適所」、「魅力ある産業」などの提言がなされた。

2. 所感

- ・参加者数は 139 名(+運営側 10 名)と大盛況であり、年明けの忙しい時期であったにも拘わらず、沢山の方にご参加いただいた。テーマ選定が良く、1 月末の金曜日で比較的参加しやすかったのではないと思われる。
- ・パネルディスカッションの進め方などの運営は概ね順調で、構造工学セミナー全体としても概ね好評だったように感じられた。また、懇親会でも有意義な交流が図れた。



会場の様子



パネルディスカッションの様子